

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071501664		
法人名	公益財団法人大牟田医療協会		
事業所名	グループホーム ファミュー	ユニット名	東館・西館
所在地	福岡県大牟田市野添町20番地19		
自己評価作成日	平成27年2月28日	評価結果市町村受理日	平成27年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年4月10日	評価確定日	平成27年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の意向に沿って、日々の生活を支援している。医療連携において、同一法人の病院(外来・訪問診療・入院、リハビリ送迎)及び訪問看護ステーションと報告・連絡・相談を行い疾患の対応や健康管理を行っている。</p> <p>地域とのつながりを保つ為、2ヶ月に1回の運営推進会議を開催して、地域を巻き込んだ防災の話し合いを行うとともに、施設での利用者の生活状況の報告や、意見交換を行っている。</p> <p>施設では、地域住民や市内全域から、電話での相談や施設へ直接来られての相談で、施設選びの方法や介護の悩みを聴いて、必要と思われる情報を提供している。地域包括支援センターから、相談援助の目的で紹介され、問題解決できるよう支援及び情報提供を行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“グループホームファミュー”は東館(16年開設)と西館(17年開設)があり、開設から10年以上が経過している。職員の入れ替わりも経験してきたが、26年度は離職が無く、馴染みの職員が結束し、チームワーク作りに努めてこられた。母体病院が隣接しており、日々の通院やリハビリの送迎を管理者などが行っているが、雨の日はカッパを着用しての送迎であり、ご利用者の負担を軽くするための最適な受診支援の方法を検討している。主任が看護師であり、職員の相談に応じており、職員個々の能力や資格を活かし、役割分担も増やしている。ご利用者の重度化も見られる中、常に「療養型施設」と「グループホーム」の違いを職員間で振り返りをしており、今後も更に“家庭的な雰囲気”を作る方法を検討すると共に、外出やレク等を含め、日々の楽しみを増やしていく予定にしている。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	のんびり、ゆったりを基本に、利用者が安心して暮らせるよう、管理者、スタッフは、理念を共有し、実践している。	職員の離職もなく、ご利用者の心身状況を共有している。管理者が受診支援を行い、医療連携を行うと共に、ケア内容の共有も図っている。主任等も中心になり、職員の良い所を引き出し、チームワークを良くする取り組みを続けている。	「のんびり、ゆったり、生活支援」という理念の基で“生活支援”を続けている。今後は更に、理念内容を振り返ると共に、“心身機能の維持・向上”を目指したレクやリハビリ等を介護計画に盛り込み、両ユニットで実践していく予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民は、施設の敷地を道路代わりに使用され、犬の散歩道や、健康増進の場となっている。	病院主催の「秋のふれあい祭」に地域の方が来て下さり、管理者が高校生の送迎支援を行った。ボランティア(傾聴ボランティアやフラダンス等)の方がホームに来て下さったり、複数の中学校の体験学習も受け入れ、地域の方との交流を深めている。人情ネットワークの世話人会の活動も継続している。	ご利用者が子ども達との触れ合いを喜ばれる事から、地域の保育園や幼稚園、小学生等の子ども達との交流方法を検討していく予定である。ご利用者の楽しみ(笑顔)が増える事を期待していきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域協力住民との交流や情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で、利用者の状況報告、サービス内容、外部評価の報告を行い、意見をいただき、サービス向上に活かしている。	隣接する交流センターで行っている。毎月の取り組み内容や医療連携の状況等を報告し、地域情報の共有もできており、参加者から「入院ではなく、通院で病状管理を細かく行っている」等の評価を頂いた。今後も家族の参加を増やすために、声かけを続ける予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、市職員、地域包括支援センター・民生委員に参加していただいている。	管理者が市役所を訪問し、高額所得者の負担軽減制度等を相談した時も適宜アドバイスを頂いている。管理者がケアマネ連絡協議会主催の研修会準備等に関わり、市の担当者と一緒に活動している。安心介護相談員も訪問(月2回)して下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや委員会にて、情報共有を行い、身体拘束をしないケアを理解してもらっている。	感情が不安定な時は原因を把握すると共に、ご本人の思いを聴くようにしている。お好きな話題を取り入れたり、一緒に散歩をしている。主治医や家族との情報交換も行い、家族と一緒に心の支援を行うように努めている。他施設の虐待事例等の新聞を切り抜き、職員と共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会にて、検討し、虐待の捉えかたや、対応を正しく理解できる取り組みを行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や日常生活支援事業について、説明を行っている。	以前、制度を利用していた方がおられた。管理者が社会福祉士や精神保健福祉士等の資格を有しており、入居時等に家族に制度の説明をしている。入居後も制度の必要性を確認し、制度利用の希望がある時は手続きの支援をしていく予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時、細かな説明を行うように心がけ、理解していただけるよう、努力している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と意向や思いを語る場を積極的に図り対応している。	毎月、「ファミーユ便り」を家族に渡している。家族の面会時は管理者等が日頃の状況を報告し、要望や悩み等を伺っている。本音で話して頂ける家族も多く、「花を植えて欲しい」「外出させて欲しい」等の要望を伺っている。家族交流会では「お菓子作り」を楽しまれた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務の調整や利用者の状況に応じ職員との話し合いで人員確保を、行っている。	職員から「排泄ケアの理論と技術を学びたい」という要望があり、勉強会が行われた。職員全員の集まりは少ないが、日々の業務の中で意見交換し、申し送りノートや日誌を活用している。管理者がケア内容を絵にしたり、写真を撮り、職員全員で共有するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って、職務を行えるよう、環境整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別、年齢に関係なく、採用している。社会参加や自己実現の権利の保障については、勤務に支障のないことが前提である。	面接時は、優しさと共に、「はい」と素直に言える方等を大切に採用している。職員からの紹介で就職する方が増えており、料理上手、壁飾りが得意、リンパマッサージが得意など、職員個々の特技を發揮して頂いている。希望休(有給)を取りやすい環境が作られている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、啓発活動の取り組みを行っている。	管理者や主任は、職員個々が日々丁寧なケアを行っているかを確認している。「自分もいつか介護を受ける身になる」「自分がされたらどうか」等の視点を大切にすると共に、「できない所を手助けしている」という気持ちで接するように伝えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加を促している。資格取得ができるよう、勤務の調整を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム管理者と、利用者の対応方法や技術について、協議している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の要望等を聴き、信頼関係を築くことに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族とも、介護のありかた、考え方に、不安や心配を抱いて入所されることもあり、不安や心配事の軽減が図れるよう支援している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族への聴き取りや本人の訴え等、「その時」を見逃さないようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い助け合いながら、信頼関係を築くようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いと家族の思いが違っていたり、ずれていたりすることがあるので、その隙間や段差を埋められるよう、支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の訪問を受け入れている。	ご利用者や家族の会話の中で、生活歴や昔のお仕事等を教えて頂いている。家族や知人の面会時は、ゆっくり寛げるようにしている。家族と一緒に床屋に行かれる方や、正月に親戚の集まりに帰省する方もおられ、外出の準備をさせて頂いている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のつながりを支援している。気が合う人、合わない人それぞれ、テーブルの座席を考慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、家族の相談援助を受け入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に自由選択できるよう支援している。	入居時は、居宅時代の介護支援専門員の情報を参考にすると共に、職員全員でアセスメントし、センター方式(1枚)やアセスメントシートに生活歴や思いを記録している。「家の畑が心配」「外出したい」「家で娘と暮らしたい」等を把握し、介護計画に繋げている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や嗜好にあわせて、本人の意向を尊重している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況にあわせて対応している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の本人の訴えや会話を通して、介護計画に反映させている。	職員全員で介護計画の変更の必要性を検討し、介護支援専門員が計画の原案を作成している。自立支援も大切にしており、実施内容は毎日チェックしている。今後も職員全員で介護計画作りに参加すると共に、医療・看護内容、レク、リハビリ等も盛り込む予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間での情報共有を行い、介護計画に繋げている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	聴き取りボランティアの活用を行い、利用者の精神的安定を図っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の防災訓練の参加や施設行事への参加により、交流を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護、訪問診療と連携し、対応している。	希望の医療機関に受診できる。通院(リハビリ通院)は管理者や看護師が行い、雨の時はカッパを着て隣接する病院の送迎(車いす利用)をしている。医師からの指示は管理者が丁寧に記録し、職員と共有している。家族の要望(入院等)に関する話し合いも続けている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の変化を見逃さず、状況報告を、訪問看護、訪問診療等につなげ、対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院より、情報提供を受け、文書、口頭にて対応の仕方を確認する。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しても、安心、安全に過ごせるよう、医師の指示のもと、対応している。	訪問診療や訪問看護を利用している。中心静脈栄養や酸素など、医療ニーズが高くなった場合は、主治医から病状や入院の必要性等を家族に説明している。看取りケアの経験はないが、ご本人や家族の意向を確認し、入院ぎりぎりまで点滴を受ける方もおられる。今後も重度化・終末期の意向を記録に増やしていく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応ができるよう、マニュアル化している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は、年2回実施している。訓練には、消防署の立会いの下、行い、運営推進会議でも、話し合いを行っている。	スプリンクラーを設置し、病院等への自動通報システムもある。災害時は各居室のベランダに避難し、窓のシャッターを閉める事になっている。訓練時は消防署からの指導を頂き、年2回は民生委員も参加して下さり、見守りをして下さっている。災害に備えて飲料水や缶詰などを準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権について、常にスタッフ同士、声を掛け合い、基本的人権の尊重をおこなっている。	衣服の身だしなみや汚れがある時は、ご本人の思いを察しながらケアしている。トイレ誘導時はトイレの外で待機したり、ドアを閉めておむつ交換をしている。理念にある“ゆったり”とした気持ちで対応できるように、職員も日々感情コントロールを続けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が出やすい環境整備や言語や文書でない思いや希望を大切にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの業務に、利用者が合わされることがないように、利用者の意向を大切にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のおしゃれ感覚と家族の感覚に開きがあっても、本人の意向を重視している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつ等、好き嫌いに応じて、品目を変えたり、している。	季節の旬の食材を採り入れ、3食とも職員が手作りしており、お好み焼き等も楽しんでいる。ご利用者もフキの皮むきや豆むき、もやし、のひげ取り等をして下さり、味見や下膳をして下さる方もおられる。	家庭的なホームを目指しており、今後も食事時間の在り方を職員間で検討すると共に、職員も一緒に食事やお茶をする機会を増やしていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は重要なので、おやつにコーヒーや食事時に汁物をつける、ジュースをつける等配慮している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを徹底して行い、利用者の方にも、理解していただけるように、声かけしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時トイレ誘導、定時トイレ誘導ともに、利用者の排泄パターンを考慮して対応している。	ご利用者個々の排泄支援の検討を続け、両ユニット共通の排泄チェック表を作っている。排泄が自立している方もおられ、必要な方は個別の誘導や排泄支援を行っている。今後も布の下着の可能性がないか等、アセスメントを行っていく予定である。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量に考慮して、排泄しやすいよう対応している。下剤も、状況により、使用している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、週2回以上であり、本人の希望を大切に、入浴日が変更できるようにしている。	できる所は洗って頂き、ゆっくり入浴できるようにしている。入浴を拒まれる場合は原因を確認し、同性介助も行っている。毎晩の陰部洗浄も行い、褥瘡がある方は、医師の指示で清拭をしている。今後もレクや外出時間を増やすために、入浴日を検討する予定である。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間や休息は自由に選択できるように、支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を、スタッフ間で確認して、利用者には、説明を行い、服薬に協力していただく。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人それぞれの楽しみや役割があり、それぞれの個別支援を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	リハビリ通いの中で、近隣の住民や朝市の人たちとの交流を楽しまれている。また、季節に応じた花々を鑑賞されるよう、外出を支援している。	隣接する病院の行き来があり、火曜と金曜にホームの近くで開かれる朝市を見学したり、鳥の鳴き声を聞きながら、病院のお花見を楽しまれている。家族と床屋や郵便局に行かれたり、日帰り温泉に行かれる方もおられる。	職員は「外出を増やしたい」と願っている。ホーム周辺の散歩を含め、短時間でも気分転換できるように、職員同士の話し合いを続ける予定である。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はされない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ファミリー便りを毎月送付している。また、写真も、同封している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高いため、開放感がある。	リビングと廊下の天井が吹き抜けで、天窓もあり、開放的な空間となっている。季節の花をテーブルに飾り、季節の飾りつけも行い、季節を感じて頂いている。職員が温湿度調整を行い、冬は床暖房や加湿器を使用しており、毎日の掃除も徹底し、換気も行っている。ご利用者が拭き掃除等をして下さっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、気のあった人が寄り添い、語りあっておられる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、持ち物や家具を活用されている。	ベッドと洗面台は備え付けで、テレビや衣装ケース、鏡、時計、クッション等と共に、仏壇も置かれている。窓からは緑の木々を見る事ができ、西日対策でよしずやシャッターなどを利用している。家族が新聞や週刊誌などを持ってきて下さる方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、段差なしの環境をつくっている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			